

BIGSTIKサイレントで BIGONEを狙え!

磯から狙う青物のトップウォーターゲーム、そして夏の風物詩ポートシラゲームにその真価を発揮するBIGSTIK。その名のとおり170mm50gとビッグなプラグである。今回BIGSTIKにサイレントモデルが追加され、使い分けすることで様々な状況に対応できるようになった。その製品解説や実釣を交えた使い分けなどをimaテスターファンキー山岡氏に解説していただきました。

磯からの青物ゲーム。ロックショアジギングと称して多くのアングラーが数少ないチャンスを手に収める為に多くの時間を費やす。そこに立つだけで満足を得られると言う人も多くディープなフィッシングスタイルとして確立されたと云えるでしょう。

昨年のBIG STIK発売に向けて私を含めた数名のimaテスターがプロトタイプを握りしめ磯へオフショアへと足を運んだ。その答えは各地から喜びの声と共に届き、ima開発スタッフ陣は、微笑んだ。発売と同時に喜びの声は加速し多くのアングラーがタックルボックスに忍ばせた。

BIG STIKのライバルカテゴリーはウッドルアー。水噛みの強化による美しいダイブとスプラッシュをアングラーの思いのままに操れるさまは、今季のサイレントモデルの登場で更に進化を遂げた。ターゲットがシラの場合、ラ

ルンタイプは独特のサウンドに誘われ遠くからでも野獣のように襲いかかる。ジャレつくアタックにもラトル音による更なる追い喰いを誘う。視覚でも楽しめるシラゲームを更なるステージへと導けるルアーとして定着した。

ニューラインナップの「BIG STIK サイレント」は、重心固定で目を見張る飛距離を手に入れた。美しい飛行姿勢から繰り出され、170mmの大きなボディが遙か大海原へと導かれる。実釣アクションの一番の違いは、水面直下でのコントロールが安易に行えるようにセットアップされた事だろう。これにより御三家と言われるヒラマサ、ブリ、カンパチからのコンタクトをより導きやすくなっている。スプラッシュからのドッグワークにも移行しやすいダイビングアクションやターンの切れも申し分なく仕上がっている。

サイズ50g・170mm

キャスト時に掛かるアングラーへのダメージを回避するには、垂らし投げが有効である。しっかりとしたグローブを着用して指を守り、自分に合った垂らしの長さを見つけたすのは、キャストイングアングラーの楽しみの一つ。100グラムクラスのメタルジグを投げているアングラーは既にコツを熟知しているでしょう。本来は空気抵抗の大きな170mmサイズなのだが開発陣の苦勞の賜か、驚くほどの抵抗が小さく、「投げる」そう! キャストの楽しさを再確認できるルアーに仕上がっている。アングラーがキャストの度に「決まったあ!」とドヤ顔ができるのである。

フック1.2mm貫通ワイヤー

根やシモリ、ブレイクや立ち位置の岩でさえ魚の味方になってしまう磯では「捕れない魚は捕れない」と諦めも肝心とされるが、ルアーの破損によるバラシは痛く悔しい。安心の貫通ワイヤー装備のBIG STIKはプラグゲームでも「ここぞ」のガチンコファイトを可能にするのでターゲットに主導権を渡しません。





ST-66 #1/0

大型フックの搭載は、アングラーの可能性を大いに引き出せる。ロッドとのバランスが重要だが「刺せる」限界と「強度」とのバランスを導き出すセッティングの世界が貴方を待っている。勿論ノーマルで十分セッティングは出ているが海の状況に合わせて、セッティングの幅を持たせる事がアングラーの楽しさを広げている。

今回のデジマグ取材実釣は、和歌山県の地磯。滋賀県大津市在住の海無し県民アングラーを迎えてくれたのは、南からのウネリと時折吹く春の風。BIG STIKサイレントモデルはウネリの腹にも喰いつきが良く、動画で取りたいほどの美しいアクションを見せていた。スプラッシュは程良く前方へと飛沫し、ダイブの潜行角度も意のままに決まる。数回のルアーローテーションを繰り返し気持ちよく釣りの動作を続けていると海面が割れた! 111HHに4500HG。ラインはPE3号、リーダーはナイロン60ポンド。ヤツはクイックなターンを

見せ沖へと進路を取る。しかし強靱なタックルとアングラーの経験にひれ伏した。1分足らずの攻防は、横たわる魚体と共に終幕を見た。その後、数本の鰭を仕留め磯を後にした。シーバスブランドとして10数年培ってきたimaの経験は青物のジャンルにおいてもその輝きを強く放っている。

BIG STIKは波やウネリの大きさにもよるがタダ巻きも有効であることを追記します。タダ巻きの場合、チェイスを見ても絶対に止めずに巻き続けましょう!

ANGLER 山岡一信
Kazunobu Yamaoka



磯からのショアジギングを得意とするアムステスター陣の中では一際異色の存在。キャストに頼らず、根際をバーチカルで攻める斬新なスタイルで次々と大物を手中にしている。過去にはオートバイレーサーという経歴を持ち、琵琶湖の畔に在住。地の利を生かしてブラックバスやヘラ鮒も楽しんでいる。

ビッグスティックサイレント

BIG STIK SILENT

2011年6月25日発売! 3,465円(税抜3,300円)

[全長]170mm [重量]50g [アクション]ドックウォーク [タイプ]トップウォーター [フック]ST-66 #1/0

外洋のビッグゲームで実績の高い、スプラッシュベシシルBIG STIKをサイレント&直立浮きにチューニングアップ。余分なラトル音を廃したサイレント仕様でスレの進行を軽減し、食わせを重視。圧倒的飛距離で遠距離サーチ、大きさを感じさせない軽快なアクションで規則的なスプラッシュを発生させ、青物やシラを魅了します。



#X1061 コットンキャンディー



#X1062 ピンクイワシ



#X1063 ブルビン



#X1064 ウメイロ



#X1065 イワシ



#X1066 マコイワシ



#X1067 サバ



#X1068 トビウオ



#X1069 ヨコワ

imaルアーがもっとわかる! 最新情報デジタルマガジン!

imaデジタル vol.58
2011.7

Take FREE!

¥0

大野祭り開催記念!!

大野ゆうきのオススメ 4つの港湾系プラグと その戦術公開!!



komomo II 90 と molmo 80 というプラグ

ここ最近80~90mmで引き波を立てながら引けるフローティングプラグが極端に少なかったところへ、その席を埋めるようにして出てきた komomo II 90 と molmo 80。トップレンジながら水面~水面直下と絶妙なレンジをただ巻きで誰でも簡単に引けるのだが、レンジが同じで、サイズもボリュームも似たようなこの2つのプラグは何が違うのか?

komomo II 90 はワイドなウォブングルロールアクションでアピール度が高く、捻れるようにしてできた引き波が広範囲に散らばった魚の好奇心を強烈にあおる。

molmo 80 は水面直下の“薄皮一枚を剥ぐような独特の引き波で、タフコンディション時の魚からバイトを引き出すのが特徴。

重要なのはリトリブスピードの違い

そして重要なのは、この2つのプラグは最もいいアクションを出せるリトリブスピードが違うということ。molmo 80 は komomo II 90 が最もいい



アクションを出せるスピードでリトリブすると泳がない。

komomo II 90 は molmo 80 のスピードで巻いてしまうと、泳ぎ過ぎてシーバスに見切られてしまうこともある。

molmo 80 は komomo II 90 より速いスピードでリトリブした場合でも安定したアクションを出すことができる。アクションは komomo II 90 よりも控えめな設定で、これも komomo II 90 より



速いスピードでリトリブしてもいいアクションを出せる要因の1つである。

2つのプラグは、使えるアクションとスピードが被っていない部分がある。その違いを、ポイントの状況やシーバスのコンディションによって使い分けて欲しいからだ。

2つのプラグの使い分け

干潟や港湾部といったポイントで、水面を意識した魚がいれば引き波系のプラグが大活躍してくれる。そんなポイントでシーバスがお好みなのはアクションの大きめな komomo II 90 なのか、アクションの控えめな molmo 80 なのか。それはその時々シチュエーションやシーバスのコンディションによっても左右される。

流れのある河川や干潟などでは流れに対してキャストする方向でリトリブスピードとアクションが変わる。これは自分がリトリブするスピード以外に河川や干潟の「流れ」というスピードの要素がプラスされるためなのだ。「流れ」のスピードを加味しなければならない。

引き波系のルアーは水面の影響を受けやすいルアーとも言える。僕の考えは水面が風などで波立っているときに波の谷間の下り坂にいる時と、上り坂にいる時ではルアーに掛かるテンションが変わるので、komomo II 90 や molmo 80 といった引き波系プラグのアクションが波の谷間の下り坂・上り坂で変化すること。下り坂の時はテンションが

少なくなるのでルアーはアクションが出にくくなり、上り坂に差し掛かったらテンションが大きくなるためアクションが出やすい。この大小関わらず波っ気がある時は安定したただ巻きをするだけで、風や波が勝手にルアーにON、OFFのアクションを付けてくれるのだ。これにたまたまシーバスはバイトする。流れのある場所でも同じ。俗に潮目と言われる流速や流れの方向が変化する場所に差し掛かったときにルアーのアクションや潜行レンジ、進む方向が変化する。この自然が与えてくれた僅かな変化にシーバスは反応する。

最新の引き波系プラグはフローティングでしっかり引き波を出しながら、飛距離も稼いでくれる。やはり飛距離が出て遠くで水面直下をゆっくり引けるメリットは大き過ぎる。しかも一口サイズなら尚更。

流れの少ないポイントで、ゆっくり引きながら広範囲に散った魚を集めようとするならkomomo II 90。流れのあるところまで飛ばしてより活発でフレッシュな魚を求めるならmolmo 80といった感じ。

今まで遠くに飛ばすならウエイトの重いルアーをキャストするしかなかったが、ゆっくり引けば根掛かりし、根がかりを恐れて速く引けばいいアクションも出せない。そんな中で、フローティングの80～90mm引き波系プラグでも、その攻められる範囲の可能性を広げ、尚且つゆっくり水面を引いて誘うことができるのがkomomo II 90とmolmo 80なのだ。

まるでトップウォータープラグ並の派手な水しぶきを上げ、それを目の当たりにできるのも楽しみの一つ。この夏・秋の活躍間違いなしはずだ。

B-太70 と koume 60 HANDLER

B-太70の魅力にとりつかれるまでに時間はそう掛からなかった。B-太70の発売後、おかげからボートシーバスまで様々なシーンで使ってきた。おかげではシャローのボトムトレースや壁際、ストラクチャー撃ちなどで、よく釣れた。ボートシーバスでは壁際で他のシンキングミノーを差し置いてひたすらバイトを引き出した。トレースコースもレンジもわずかも変わらない状況下で着水直後のバイトが何度もあり、不思議でならなかった。また、クリアウォーターで、カタクチイワシがびっしりに入った運河の中で他のミノーが見切られる中、B-太70は何故かただ巻きだけで絶えずバイトを引き出した。

結局、決定的な違いの一つがアクションであることに気付いた。ピッチの速いタイトなアクションはイワシを食っているシーバスに効き、ボトムのマイクロベイトやハゼ、カニといったベイトを食っているシーバスにはスローなボトムただ巻きがよく釣れる。夏、秋にはサッパに着いたシーバスにも有効で、このピッチの速いタイトなアクションがよりスローなリトリブに対応し、スローでもフラフラとアクションすることが一つのキーポイントであることも分かった。

河川でも港湾部でもB-太70のレンジとアクション、スピードは使い易く、中・近距離戦に向いている。

では逆に河川、港湾部でB-太70のようなシンキングのプラグで対応できないのは、どんな状況だろうか。まずは飛距離。軽くて70mmと小さなB-太70では当然届かない範囲も広い。レンジにしても1m潜るか潜らないか。リトリブスピードもスローで使うか流れの緩いときに使うことが多い。



遠距離もしくは1m以深にシーバスが居る場合の一つの対応策となるのが限定発売されるkoume 60 HANDLER(ハンドラー)だ。

ローテーションの一つとして使うのが前提。小型のバイブレーションプラグだが、先行発売のkoume 60より3g重く、飛距離とキャストバリエーション面で優れている。またHANDLERという名の通り

「操って釣るバイブレーションプラグ」がコンセプトである。フォールやロッド操作時のレスポンスにキレがあるのは確かだった。大きなロッドアクションには向かないが、リトリブ時に時々加えるトゥイッチにはキラキラとフラッシングを発生させ、速いリトリブでミノーのような使い方も可能だった。小型だから8,6フィート前後のロッドで操作しても抵抗感少なくミノーの様に操れるのも「HANDLER」の魅力なのだ。



+3gでレスポンスにキレが生まれた

水深が浅く流れの緩い河川や運河などのボトムをトレースするのに使えるし、デイゲームの港湾部や河川でリトリブ中にトゥイッチを入れながら引いてくるのもOK。フォールスピードがkoume 60より速いのでリフト&フォールにもキレがある。水深の深い港湾部から水深の浅い流れのある河川や運河までB-太70とは違うレンジ、アクション、スピードで見せ方を変えて使うことができる。

B-太70とkoume 60 HANDLER、この2つの小型プラグを使い分けることで港湾部で大幅にチャンスが広がるのは間違いない。

ANGLER 大野 ゆうき
Oono Yuki

東京湾奥をホームに年間1トンを越す水揚げを誇るソルト界屈指のアングラ。レンジ、アクション、スピードの3つの要素を軸にルアーローテを展開。マッチザベイトに頼らず、いかにして口を使わせるかといった釣果直結の理論を持つ。過密フィールド、ハイプレッシャー下でテクニカルなキャストと豊富な引き出しで圧倒的な釣果を叩き出す。





どすこいシールを集めて賞品GET!!

大野祭り

7月25日～10月25日まで

詳しくは右記専用WEBページをご覧ください imag.ima-ams.co.jp/onomatsuri 7月初旬開設予定

抽選で **molmo30**

フルカラー17本SET!をはじめ
大野祭りオリジナルネーム入りモルモ80を
合計100名様に
PRESENT!!

